

学校設定科目「応用日本史」における探究学習

—探究学習による学習に必要な資質・能力育成の可能性—

地歴公民科 伊吹 憲治

変化の激しいこれからの時代を生きていく生徒には「変化への対応力」を身につける必要がある。「変化への対応力」を身につけるためには主体的に学ぶ態度が重要であり、主体性を引き出すために「探究学習」が注目されている。そこで日本史の「探究学習」を通じて、学習に必要な資質・能力（思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度）を育成できると考えた。本稿は3年生の学校設定科目「応用日本史」で行った「探究学習」の実践を報告する。

<キーワード> 探究学習 日本史 主体的学習態度

1. はじめに

科学技術が進歩し、人生 100 年時代をむかえ、今まで以上に変化が激しく、先が見通せない時代になっている。AI とロボットの台頭で今ある多くの仕事がなくなり、今はない新しい仕事につく人も大勢出てくると言われている。当然、今の生徒達は定年までずっと同じ仕事を続けられるとは限らなくなるだろう。そういう変化が激しい社会の中で長い人生を生きていくこれからの生徒達には、「変化への対応力」が必要になってくるのではないだろうか。「変化への対応力」とは、常に新しいことを学び続け、知識や技術を活かし、挑戦する勇気を持つことだと考える。そのため、生徒達には普段から主体的に学ぶ態度を持ってほしいと考えている。

生徒の主体性を引き出すためにはどうすればいいのか。新学習指導要領で特に注目されているキーワードが「探究」である。「探究学習」とは、生徒自らが課題・問いを設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析し、周囲の人と意見交換・協働しながら進めていく学習活動のことである。これによって学習のために必要な資質・能力である思考力・判断力・表現力、さらには主体的に学ぶ態度の育成を目指した。

2. 実践内容と反省

(1) ガイダンス・マインドマップの作成 (2時間)

ガイダンスでは、応用日本史の授業では自分の興味関心のあることについて歴史的に探究すること、大学生の卒論テーマなどを挙げながら、歴史は教科書に書いてあることだけではなく、身の回りにあるあらゆるものが歴史の対象になり得るということを伝えた。さらにマインドマップを作成する中で自分の興味関心のある分野について考えさせた。

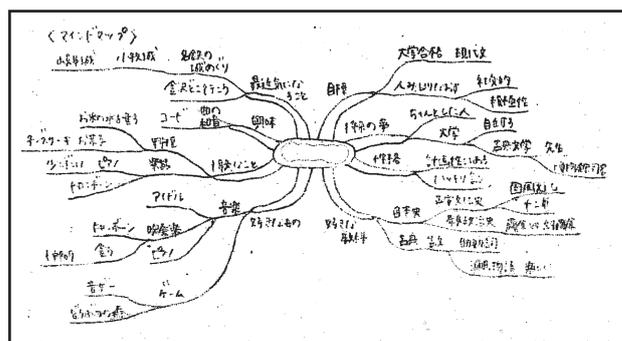


図1 生徒作成マインドマップ

(2) 「問い」の設定（2時間）

探究学習において「問い」の設定は最重要事項である。「問い」の立て方でその後の探究活動の成否が決まるといってよい。ここでは下の表を参考に「問い」を考えさせた。はじめから自分の中で明確な「問い」や、興味関心が強い分野がある生徒は順調に探究学習に入れるが、そうではない生徒は先行研究の整理や情報収集をしながら「問い」を考えなければならない。生徒にはこの過程が難しく、私も面談を通じて一緒に考えたが苦戦した。一回「問い」を立てても情報収集しているうちに「問い」が変わってくることもある。

> 問いを作ろう
キーワードを書き、問いを作りましょう。

KEYWORD

キーワードにぶつける質問 (SWIH)			取り出される論題 (問い) の例
番号	ぶつける質問		
1	Who 主体	誰が？	
2	What 定義	どういう意味？	
3	When 時間	いつから？	
4		いつまで？	
5	Where 空間	どこで？	
6	Why 因果	なぜ？	
7		経緯	いかにして？
8	How	様態	どのように？
9		方法	どうやって？
10		当否	どうすべきか？

キーワードにぶつける質問 (Yes / No)			取り出される論題 (問い) の例
番号	ぶつける質問		
11	慣習性	事実か？	
12	比較	ほかではどうか？	
13	特殊化	これについては？	
14	一般化	これだけか？	
15	断定	すべてそうなのか？	

SWIH + Yes / No		
16	+	
17	+	
18	+	

↓

論題 (問い) ※必ず、Yes / No で答えられる問いにする。文末は「～か」とし、「？」は書かない。

図2 後藤芳文・伊藤史織・登木洋子 『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』 玉川大学出版部 2014年 P27

(3) 情報収集（中間発表の前後で10時間程度）

中間発表を挟んだ前後に情報収集の時間を設けた。この時間では1人1台iPadを用意し、主にネットを通じて参考となる研究論文や文献、史料を収集させた。さらに学校の図書室にも行き、1人1冊は書籍を借りるように促した。情報収集の前にはメディアの特性・図書館の使い方等を簡単レクチャーした。また情報収集にあたってはエビデンスノートを作らせ、情報の内容、参考文献リストなどを作らせた。大学生ならば様々なところに史料収集へ行くところであるが、高校の授業内で行うには、どうしてもネットや書籍が中心にならざるを得ない。しかし、なかには地域の資料館等に史料がないか問い合わせて、実際に資料館を訪れた生徒もいた。

(4) 面談

生徒の調べ学習と平行して個別に面談を行い、生徒の進捗状況の確認や、「問い」がなかなか定まらずに困っている生徒には、私も生徒と個別に対話をしながら一緒に「問い」を考えさせた。生徒の面談時間は1人約5分で1時間に8人程度である。応用日本史の講座は24人だったので3時間あれば一通りの生徒と面談できた。やはり探究活動を各自でやらせて指導していくのは、講座に24人以上いると厳しい。できれば1人の教員に対して16人以下の方が丁寧な指導ができると考えられる。

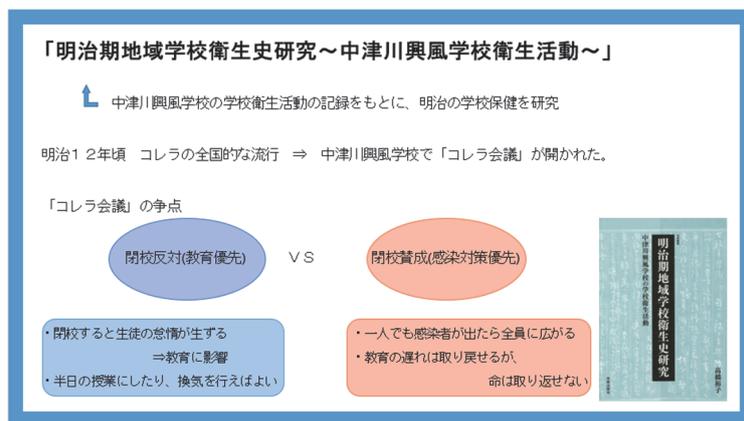


図4 生徒作成発表スライド

(7) 期末発表（2時間）

学期の終わりにまとめのための発表を行った。8人グループを作り、1人7分発表、3分質疑応答の時間を設けた。発表を聴く生徒達には評価シートを配布して、発表の態度や資料、内容の評価させた。中間発表と同様、発表の様子はiPadで録画しておき、後で教員が評価をするときに一人ひとりの発表が見られるようにした。

実際には発表は7分以上になることが多く、時間が足りなくなることもあった。またプロジェクターを3カ所使っていたので機材のトラブルなどもあり、対処に苦慮した。

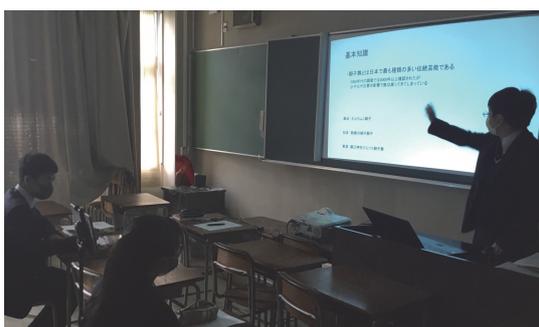


写真1・2 発表の様子

(8) 論文執筆（夏期休業）

夏期休業中に1学期の活動を論文形式でまとめる課題を出した。字数は3000字でワードのデータで提出してもらったが、5000字以上書いてきた生徒も多くいた。中には自宅で自分が見えるパソコンがないという生徒もいたが、そういう生徒には手書きでもよいということにした。実際24人中手書きで提出したのは1人であった。この問題も今後1人1台端末が導入されることで解消されるだろう。

2学期に関しては、共通テスト・一般入試も迫ってきている中、全員に論文形式のまとめを提出させるのは無理だと判断して、年内に進路が決定している生徒のみに2月中旬を締め切りとして課題を出した。

(9) 2学期

2学期に1学期に行ったサイクルをもう一度経験させて、探究学習の習熟度の向上を図った。探究テーマについては下記にあるとおり、1学期からのテーマを継続・発展させたものも、全く新しい別テーマを設定した生徒もいた。

3. 生徒の探究テーマ一覧

	1 学期	2 学期
1	昔話と童話の変化と時代 ～「桃太郎」と日本七大昔話を軸に考える～	なぜ獅子舞は全国に広がったのか
2	おもちゃの歴史 ～今までとこれからのおもちゃのあり方を考える～	保育士の歴史 ～保育士の変遷をたどる～
3	平均寿命は今後も伸び続けるのか	なぜ日本には仏教があるのにキリスト教が浸透したのか
4	Jリーグがどう盛り上がったのか ～プロ野球との違い～	サッカー海外リーグの観客動員数から読み取れる歴史
5	吹奏楽コンクールの課題曲の変遷は 各時代の出来事と関連しているのか	翻訳のされ方はいつの時代の作品でも変化しないのか ～現代アニメと古典文学物語の英語訳を比較～
6	首里城は再建できるのか	外食の歴史 ～和食より洋食が食べられるようになったのはなぜか～
7	日本では女性が洋服を着るようになったのは 欧化政策がとられたからか	日本の障害児教育制度はどのように変化してきたのか
8	和歌と短歌の価値観の違いについて ～恋愛面からの価値観 その他の価値観に分けて焦点を当てる～	猫が登場する書物や絵画は当時の出来事と関係しているのか
9	海外旅行にはいつ行けるのか	コロナの流行は学校保健に影響を与えたか ～学校保健の歴史から～
10	偉人は国を変えた英雄であるのか	江戸幕府は維持できなかったのか
11	遊びや年中行事が子どもに与える影響は時代によって異なるのか	ピアノが子どもの習い事に 人気なのはなぜか
12	音楽は子どもの成長に影響するのか	プリキュアは変化しているのか
13	伝統芸能を残すにはどのようなことが必要か	年中行事はこれからもあるのか
14	日本人の色彩心理は変化しているのか	日本人女性の声は変化したのか
15	手書き文化は残すべきか	「着物」は日本の象徴といえるのか
16	「青信号」は正しいのか	文豪の死因は生活習慣病か
17	聖地巡礼はいつからあるのか	これからの日本の学校教育はどうなるのか ～これまでの教育の変遷とその背景をもとに考察～
18	部落問題はどのように変化してきたか	貧困の形は変化したのか
19	テレビ放送は動画配信に変わってしまうのか	音楽は人々にどのような影響を与えてきたのか
20	今と昔で映像は変化したのか	今と昔で映像技術は変化したのか
21	婚礼式から現代の結婚式まで受け継がれている文化はあるか	昔の家庭料理はうす味なのか
22	上の本は今後なくなってしまうのか	これまでの歯科医療とこれからの歯科医療
23	人間にとっての「美」とは	男性の化粧は受け入れられるのか
24	アイドルの存在とは ～現代と江戸時代から考える～	男性アイドルの存在 ～江戸時代と現代～

1 学期の「海外旅行にはいつ行けるのか」など、一見すると歴史と関係ないテーマのように思えるが、大正時代のスペイン風邪と現代のコロナを対比して未来を予測するなど、過去と現代の対比を取り入れたテーマも多かった。

4. まとめ

1 年間に 2 回の探究学習を通じて生徒は慣れない探究学習に悪戦苦闘しながら意欲的に取り組んで、こちらの想像を上回るクオリティの発表をする生徒もいた。短期的に探究学習を 2 サイクル回すことで、1 学期の反省点を活かして 2 学期の活動に取り組めた生徒が多かった。自分自身も生徒に本格的な探究学習をさせるのは初めてだったのでうまくいかなかったことも多かったが、生徒の意欲的に取り組む姿勢を見て、探究学習が生徒の学習に必要な資質・能力を育成するために有効な手段だということがわかった。今後も指導のあり方をよりブラッシュアップして生徒とともに学んでいきたい。

5. 参考文献

後藤芳文・伊藤史織・登木洋子 『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』
玉川大学出版部 2014年